

推薦します

筑波大学名誉教授 山口 満

コア・カリキュラムは、戦後初期における民主主義教育の理念に立つ教育改革運動において、その先駆となる重要な役割を果たした。その理論と実践は、日本のカリキュラム改革の歴史の中に燦然と輝いており、現在の地点からみても、示唆に富む貴重な知見を提供しており、実に魅力的な内容を有している。

現在、我が国の教育界では、教育研究における理論と実践の往還を図り、その成果に基づいて、実践的な指導力を育む教員養成の改善や教師教育の高度化を図ることが喫緊の重要な課題となっている。「戦後初期コア・カリキュラム研究資料集」が、こうした教育研究と教員養成、教師教育の課題に的確に応えることが出来る最適の研究、教育のための資料として広く活用されることを期待し、推薦する次第である。

コア・カリキュラムの地方、地域における開発と普及の過程に注目すると、都道府県では、師範学校の附属学校が新教育のパイオニアとして、中心的な役割を果たしている。

今回刊行される第3回配本では、全3巻を通して、主として、全国約40の附属学校のコア・カリキュラムが収められている。そこには、戦後の混乱期の中で、新日本建設のための新教育の樹立という課題に着実に応えようとする教師と学校の真摯な努力の跡が反映されている。また、それぞれの地方、地域の特色あるカリキュラムが見られることも、魅力である。

よくぞこれだけ多数の実践記録が残されていたものだという思いである。また、貴重な資料を収集された熱意に敬意を表したい。

戦後教育の地方、地域における展開という新しい視点での教育研究を支える貴重な研究資料として広く活用されることを期待したい。